

談話会



テーマ

『花き振興』のこうしん

10月30日、種苗交換会のメイン行事の談話会が開催されました。この談話会は、生産者の経営確立と産地拡大を探ることを目的に開かれ、この日は、生産者やJA、県、流通関係者ら10人が花きの担い手・産地づくり、生産拡大に向けて討議をしました。

所得の増大と生産拡大を図るためには、複合経営への転換が求められ、花きは、その収益性の高さから県内での生産が年々拡大しています。中でもリンドウとダリアは、この10年余りで産地化が急激に進んでいます。県農業試験場の照井義宣試験場長が議長を務め、担い手・産地づくりなどについて協議されました。

JAかづの花き部会の池田みゆきさんは「困った時に何でも話せる仲間作りが大事。お互い

に意見交換し栽培技術の向上に努めていきたい」と現状を紹介しました。

また、需要拡大について県園芸振興課の高橋宏彰副主幹は「夏から秋の生産に強みがある秋田の花を東京五輪で使ってもらえるよう、皆さんと働きかけていきたい」といった提案がされ、生産者、県、JAが一体となって、生産拡大に努めることが確認されました。



農業機械化ショー



協賛第2会場では、最新の農業関連機械を展示する農業機械化ショーが開催され、高性能のトラクターやコンバインなどずらりと並び、来場者の注目を集めました。

学校農園展

3校が受賞

主会場では、児童らが学校農園活動を通じて得た知識や経験をまとめた、学校農園展が開催されました。今年はい県内の小学校9校、支援学校8校が出席し、優秀賞1席に鶴形小学校、優良賞に能代支援学校、審査員特別賞に渟城西小学校が見事入賞しました。



↑鶴形小学校の活動の記録



来年の種苗交換会は
「由利本荘市」で
開催!